

## 第1回 展開の枠組み

### ① コロナ禍で増える倒産

コロナ禍による倒産件数は2021年1月21日現在、1年間で917件となっています。  
(帝国データバンク)

	2020年											2021年
月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1
倒産件数	1	14	74	68	112	105	90	104	105	92	123	29

現状、資金的には政府の手厚い支援体制(実質無利子、無担保、無保証)があるものの、コロナ禍後の経営課題は、「売上不振の克服」、「新規顧客の掘り起こし」、「ビジネスの仕組みの変更」、「新しい生活様式への対応」、「資金調達・資金繰り改善」、「倒産危機の回避」、「事業承継・廃業、人手不足」など多様なものとなります。

中でも企業の存続にかかわる「倒産」、「廃業」、「資金繰り」などが大きな課題となって来ます。

「危ない会社の見分け方」は従来から、企業や金融機関にとって大きな課題です。一つ間違えば、自らの存立を危うくしてしまうからです。

まず、危ない会社とは「倒産の危険性のある会社」と定義して進めて行きます。

ではどのように危ない会社を見つけて対処してけばいいのでしょうか。

### ② 危ない会社七つの視点

七つの視点で見分け方と対応策を解説していきます。

1. 大事なことは倒産の危険性のある会社に見られる兆候に眼を配り、注意深く観察を続けることです。この兆候について解説します。
2. 「倒産の軌跡」というものがあり、企業の発展過程での倒産の軌跡が当てはまらないか、そのパターンを解説。
3. 産業構造から衰退の可能性の高い業種・業態にシフトしている企業も危ない会社と言えます。
4. 危ない会社と言っても危なさほどのレベルなのが、ランク別に提示します。
5. 兆候を見分けるための日常での訪問・面談をどのように行うかを解説します。
6. 危ない会社と判断した場合の手の打ち方はどのように。
7. 危ない会社の立て直し方法も多様ですが、法的再建、経営再建計画について事例を交えて解説します。